

私たちは始めています...

# ECO-FRIENDLY



夏のキャンパスグリーン



教材園での「農場実習」

## 環境報告書

2007



秋のキャンパスグリーン



「生命」の大切さを学んで



大阪教育大学

# 1. もくじ

1. もくじ	1
2. 大阪教育大学環境方針	2
環境報告書の公表にあたって—学長メッセージ—	
環境報告書の作成にあたって	
基本方針	
3. 事業概要	5
大学概要	
事業概要	
4. 環境マネジメント組織	9
5. 環境配慮実施計画	10
省エネルギーの推進	
廃棄物の抑制	
環境汚染防止	
環境教育などの充実	
地域貢献	
喫煙対策	
学内美化	
法規制の遵守	
6. 環境マネジメント実施とその効果	13
2006年度大阪教育大学の物資収支	
エネルギー量データ	
水使用量データ	
紙使用量データ	
7. 環境マネジメント活動の推進	18
省エネルギー・節水・エコ対策	
廃棄物の分別徹底とリサイクル	
化学物質(実験用劇物)の適正管理	
分煙対策、放置オートバイ・自動車等対策	
グリーン購入の推進、構内緑化の推進・保全活動	
環境教育への取り組み	
附属学校における環境活動	
生協における環境への取り組み	
8. むすび—総括環境責任者—	26

## 2. 大阪教育大学環境方針

### — 学長メッセージ —

昨年度に引き続き、大阪教育大学環境報告書2006年度版を発行することとなりました。

環境問題は、年を追う毎に深刻な問題としてわれわれに迫ってきていますが、それに対する取り組みが進んでいるかは疑問のある状況です。

本学は金剛生駒紀泉国定公園内に位置し都心の大学に比べ自然に恵まれたキャンパスであり、将来に亘りこの豊かな環境を維持して行かなければなりません。本年の異常気象を思わせる極暑で樹木が弱っている有り様を見ていると、地球規模全体での環境変化に危惧を感じざる負えません。

本学の環境に対する取り組みの一つに、文部科学省の大学教育改革（現代G.P.）に採択された「地域連携学校教育のできる教員養成」プログラムがあり、次世代を担う子どもたちに地域と連携し自らを取り巻く環境への幅広い知識や感性教科教育、体験学習に取り組むなど教員養成大学の特色を生かした活動を実施しています。

本学は教員養成の基幹大学として、地域と世界の人々の福祉に寄与する大学であることを使命としており、ますます深刻になっている環境問題に対して教育界における有為な人材の育成を通じて、十分な知識と理解を持ち行動のできる人材を養成して行かなければならないと考えています。



最高環境責任者  
大阪教育大学長 稲垣 卓



本学環境マスコット

## ■ 環境報告書の作成にあたって

### 1. 編集方針

この環境報告書は、「環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律（環境配慮促進法）」に準拠し、環境省の「環境報告書ガイドライン2003年度版」、「環境報告書作成基準案」を参考に作成しています。

### 2. 報告書の対象範囲

この報告書の対象範囲は、大阪教育大学柏原キャンパスの事業活動・教育・研究活動とします。

### 3. 報告書の対象期間

この報告書の対象期間は、2006年4月～2007年3月とします。



## ■ 基本方針

大阪教育大学は、地球環境の保全が大きな問題であることを真摯に受け止め、教育研究及びあらゆる活動を通じて、地域を含めた良好なキャンパス環境の維持保全に努める。

また、教員養成系大学として高い学識と豊かな教養をもち、環境問題に理解のある人材を育成します。

このため、特に次の事項について推進して行きます。

1. 省エネルギー、廃棄物の抑制、資源の再利用、環境汚染防止等全ての環境負荷の低減に継続的に取り組みます。
2. 美しく豊かなキャンパス環境の実現に向けた緑化整備、環境美化等について、全ての大学構成員の参加によるプログラムを推進します。
3. 環境に関する法令を遵守し、さらに自主管理規程を制定し、大学の社会的責任を果たします。
4. この基本方針を達成するため、環境配慮目標を設定し、環境情報を提供するなど、全ての大学構成員により、環境保全に取り組みます。

この方針は、BBS（電子掲示板）をもって全構成員に周知するとともにインターネットのホームページを用いて、広く社会に開示します。

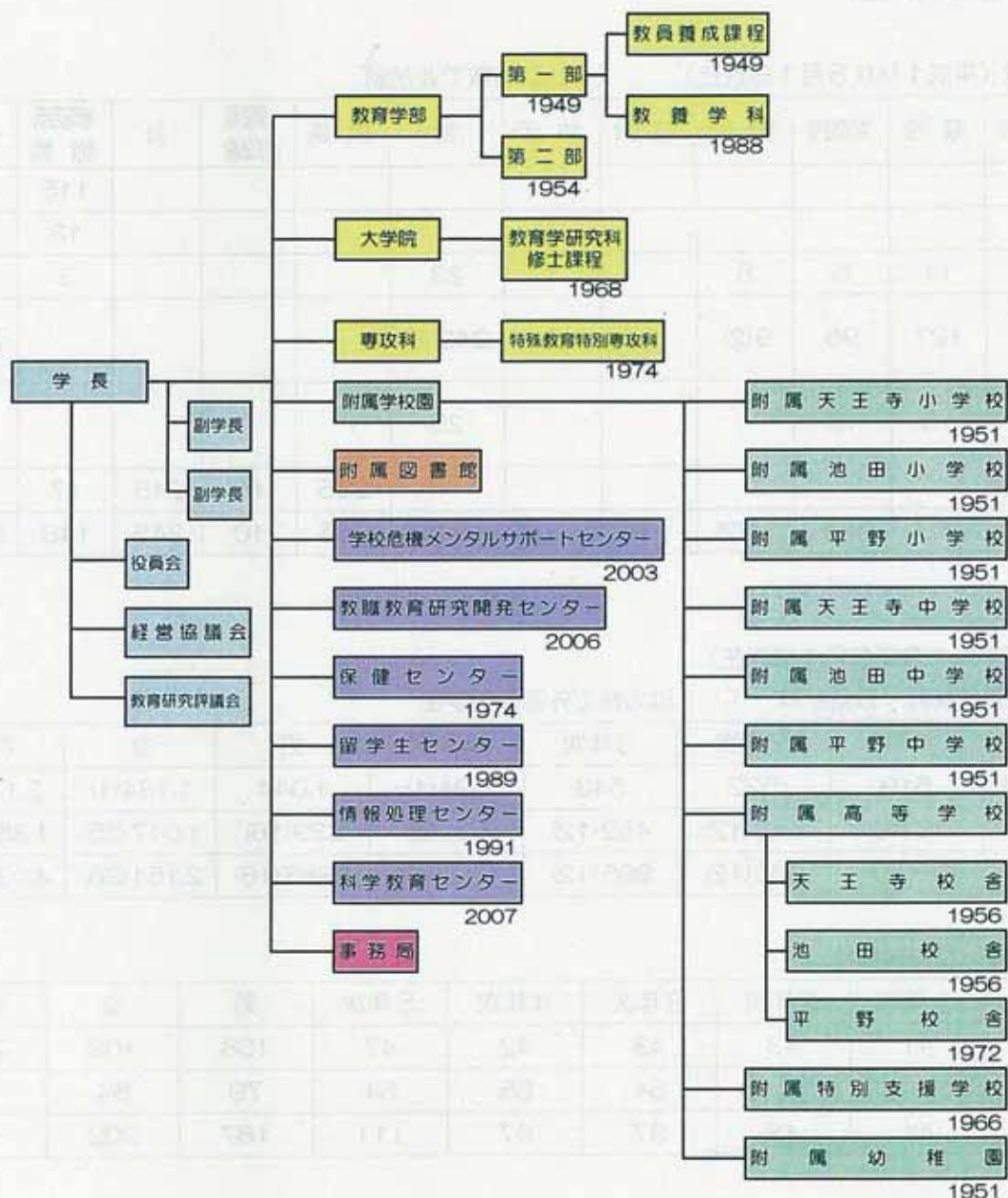
2007年9月30日

大阪教育大学長

稲垣卓

# 3. 事業概要

## ■ 大学概要



大阪教育大学は、昭和24年国立大学設置法の公布により、大阪第一師範学校、大阪第二師範学校を包括し、大阪学芸大学(昭和42年に大阪教育大学と改称)として発足、平成16年4月には国立大学法人大阪教育大学へと移行しました。発足以来、教育基本法並びに学校教育法に示す精神にそって、「学芸の研究教授につとめ、高い学識と豊かな教養を持つ人材、特に有為な教育者を育成する。」ことを目的として教育研究活動を行っています。

平成5年には、大阪府柏原市への移転統合を完了し、教育学部第一部に小学校、中学校、障害児教育、養護教諭、幼稚園の各教員養成課程を設置し、天王寺キャンパスには第二部(夜間)小学校教員養成5年課程を設置、また、大学院には教員養成系大学として全国最大規模の18専攻を擁する教育学研究科(修士課程)を設置しています。

また、大学附属施設として11の附属学校園、6つのセンターを設置するなど、総合的な教員養成系大学となっています。

## 2. 職員数

### ■役員数（平成19年5月1日現在）

学 長	理 事	監 事	合 計
1	4	2(1)	7(1)

※（ ）は内数で非常勤

### ※ ■職員数（平成19年5月1日現在）（ ）は内数で非常勤

区 分	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	計	教 諭	養護 教諭	計	事務系 職員	合 計
事 務 局										115	115
附属図書館										13	13
各センター	11	6	5		1	23				3	26
教育学部第一 部	127	96	9(2)	8	2	242(2)					242(2)
教育学部第二 部	15	10				25					25
附属学校・園							235	10	245	17	262
合 計	153	112	14(2)	8	3	290(2)	235	10	245	148	683(2)

## 3. 学生数

### ■教育学部（平成19年5月1日現在）

#### 第一部 教員養成課程・教養学科（ ）は内数で外国人留学生

課程・学科	1年次	2年次	3年次	4年次	男	女	合計
教員養成課程	519	522	543	594(1)	1,044	1,134(1)	2,178(1)
教養学科	431(9)	443(12)	452(12)	530(8)	839(16)	1,017(25)	1,856(41)
合 計	950(9)	965(12)	995(12)	1,124(9)	1,883(16)	2,151(26)	4,034(42)

#### 第二部 小学校教員養成課程

課程・学科	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	男	女	合計
1年次入学	41	43	43	42	47	108	108	216
3年次編入学			54	55	64	79	94	173
合 計	41	43	97	97	111	187	202	389

#### 特別支援教育特別専攻科

専 攻	男	女	合計
言語教育障害専攻	9	13	22

#### 大学院教育学研究科

専 攻	1年次	2年次	男	女	合計
学校教育専攻他16専攻	234(11)	267(19)	262(10)	239(20)	501(30)

※（ ）は内数で外国人留学生

## ■ 事業概要

本学は、その主目的である教員養成の他、幅広い教養と豊かな人間性を身につける教養学科を置き、加えて、それぞれを基礎に置く大学院を設置している。

また、聴覚言語障害教育の充実に資するため、主として現職教員を対象とした特殊教育特別専攻科を置いている。

### 1. 教育学部

本学教育学部には第一部〔柏原キャンパス〕・第二部〔天王寺キャンパス・夜間〕の教員養成課程と教養学科がある。

#### (1) 教員養成課程

##### ①第一部

卒業と同時に所属する課程・専攻に対応する教育職員一種免許状授与の所要資格を得られるように編成されている。

課程は、小学校教員養成課程、中学校教員養成課程、障害児教育教員養成課程、幼稚園教員養成課程、養護教諭養成課程がある。

##### ②第二部

天王寺キャンパスにおいて、昼間に学べない勤労学生等のために門戸を開いており、課程は小学校教員養成5年課程で、卒業と同時に小学校教員一種免許状授与資格を得られるように編成している。

#### (2) 教養学科

あらゆるジャンルの教養を身につけることができるようにとのニーズに応え、幅広く次の7専攻6コースを設けている。

人間科学専攻、文化研究専攻（日本・アジア言語文化コース、欧米言語文化コース、社会文化コース）、数理科学専攻、自然研究専攻、情報科学専攻、スポーツ・健康科学・生活環境専攻（スポーツコース、健康科学コース、生活環境コース）

### 2. 大学院教育学研究科（修士課程）

本学の大学院教育学研究科（修士課程）の組織は教員養成課程を基礎に置く大学院と教養学科を基礎に置く大学院に大別でき、その各々に現職教員、社会人等を対象とする夜間大学院を設けている。

また、すべての専攻において、基礎となる一種免許状授与の所要資格を有している場合に限り、専門分野に対応する教育職員専修免許状授与の資格を得ることが可能である。



### (1) 教員養成課程を基礎に置く14専攻

- ①学校教育専攻 ②国語教育専攻 ③社会科教育専攻 ④数学教育専攻
- ⑤理科教育専攻 ⑥英語教育専攻 ⑦家政教育専攻 ⑧音楽教育専攻
- ⑨美術教育専攻 ⑩保健体育教育専攻 ⑪障害児教育専攻 ⑫技術教育専攻
- ⑬養護教育専攻 ⑭実践学校教育専攻(夜間)

### (2) 教養学科に基礎を置く4専攻

- ①国際文化専攻 ②総合基礎科学専攻 ③芸術文化専攻 ④健康科学専攻(夜間)

## 3. 特殊教育特別専攻科

聴覚言語障害教育の充実に資するため、主として現職教員を対象として特殊教育に関する専門教育を行い、この分野における教育を担当し得る教員の養成を目的に設置している。

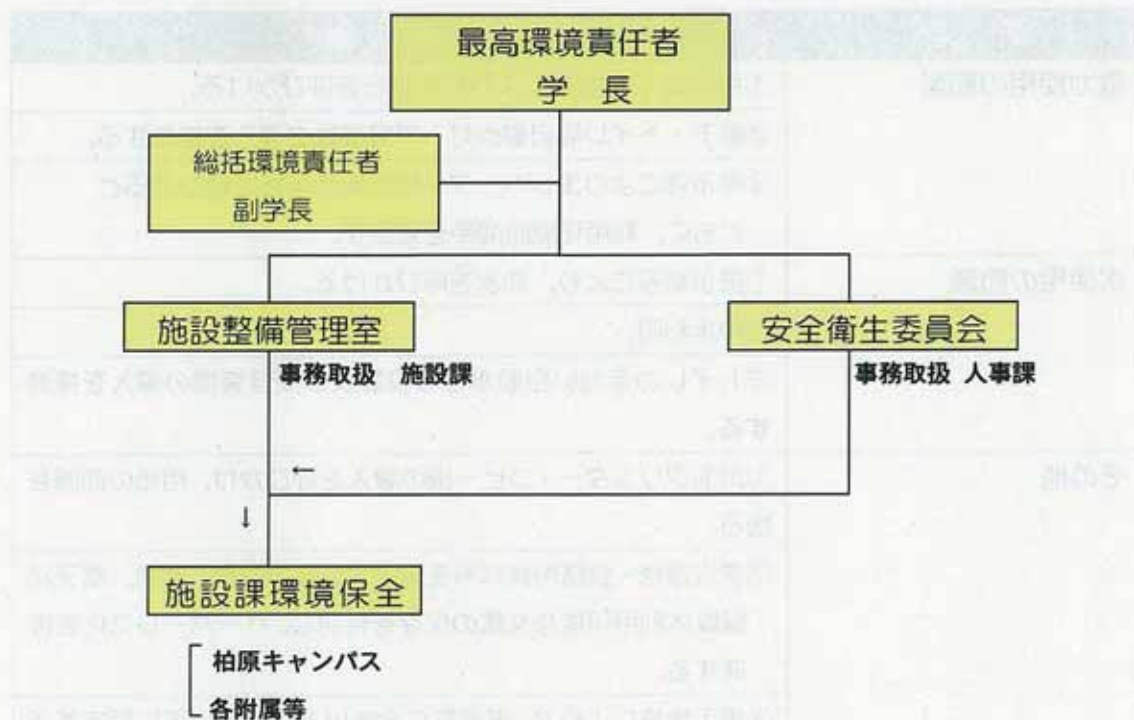
修了年限は1年で、小学校・中学校・高等学校もしくは、幼稚園教諭の普通免許を有している者を対象としている。



## 4. 環境マネジメント組織

本学には施設・環境に係わる計画、整備及び維持保全について、理事（副学長）を室長に教員、事務職員で構成する施設整備管理室が審議検討を行っている。

また、大学の予算関係を担当する財務管理室の下に経費削減検討会を設けて光熱水量等のエネルギーやコピー用紙の削減を推進する等、環境負荷軽減を実施している。



### 委員会等構成

施設整備管理室	
担当理事〔室長〕	
管理部長	
指名職員	教員若干名
	財務課長
	施設課長
	施設課長代理

安全衛生委員会(規定・第23条)	
担当理事〔委員長〕	
産業医	
衛生管理者(学長指名)	
衛生推進者	
危害防止担当者(学長指名)	
安全衛生経験者(学長指名)	
健康障害防止・対応策(学長指名)	
学長指名委員若干名	

## 5. 環境配慮実施計画

大阪教育大学の環境配慮の目標は、「省エネルギーの推進」「廃棄物の抑制」「環境汚染防止」「環境教育などの充実」「地域貢献」「喫煙対策」「学内美化」「法規制の遵守」の項目を実施計画とし、進めていきます。

### ■ 省エネルギーの推進

項目	実施計画
電力使用の節減	①掲示物、校内放送により節電励行を呼びかける。
	②廊下・トイレ等自動点灯・消灯装置の導入を推進する。
	③掲示物によりエレベーターの利用節減を呼びかけるとともに、利用可能時間帯を見直す。
水使用の節減	①掲示物等により、節水を呼びかける。
	②中水利用。
	③トイレの手洗い自動水栓の設置及び擬音装置の導入を推進する。
その他	①両面プリンター・コピー機の導入を呼びかけ、用紙の節減を図る。
	②学内連絡・会議用資料等を電子メールで配信、また、電子記録媒体利用可能な文書の保存を検討し、ペーパーレス化を推進する。
	③掲示物等により冷・暖房を28度以上20度以下に設定することを呼びかける。
	④講義室等の空調設備にはガス方式を採用し、省電力を図るとともに、温室効果ガスの排出を抑えて環境保全を図る。

### ■ 廃棄物の抑制

項目	実施計画
一般廃棄物の排出を抑制する	①分別回収の徹底強化。
	②大学生協のランチボックス等紙パックの回収。
	③不用物品の学内再利用。
	④ゴミやタバコのポイ捨て禁止の呼びかけ。
	⑤掲示によるマナー啓発活動の展開。

## ■ 環境汚染防止

項目	実施計画
実験廃棄物等の管理	学長統轄の下、大阪教育大学実験廃棄物等管理委員会において適正管理する。
実験廃棄物等の廃棄	大阪教育大学実験廃棄物等取扱規程に基づき、実験廃棄物を排出する実験廃棄物等取扱者が、実験廃棄物等取扱責任者の指導監督の下、廃棄処理する。
実験用劇物等の管理	購入者がその都度、薬品名・薬品番号・購入単位・購入年月日・受入量・使用者を受払簿に記載する。
	大量の物は屋外の鍵付き保管倉庫に、少量の物は屋内実験室等の鍵付き保管庫に保管する。
	受払簿は保管倉庫内と保管庫内に保管する。
	受払簿は使用する毎に記載する。

## ■ 環境教育などの充実

項目	実施計画
環境教育の充実	教材園での栽培を通して、自然環境の大切さを学ばせる。
環境研究の充実	科学研究費への積極的応募。
	民間企業との共同研究の推進。
環境保全意識の啓発	春と秋、年2回のキャンパスクリーン週間を設け、自分達を取り巻く環境は自分達の手で護らねばならないという意識の芽生えを図る。

## ■ 地域貢献

項目	実施計画
森林体験学習	柏原市との連携協定に基づく、近隣の小学生を対象とした森林体験学習を本学学生ボランティアにより実施。
グリーンアドベンチャー (社団法人青少年交友協会)	キャンパス内に設定された、コース上の植物の名前や生態を付設ボードのクイズを解きながら学習し、キャンパスを廻る野外活動で、近隣地域の住民にも開放。キャンパスの豊かな自然の中で、自然に親しみ、植物をとおして生命の尊さとそれを育む環境保全の大切さを体感させる。本学では平成17年9月に国立大学として2番目に設置された。

## ■喫煙対策

項目	実施計画
禁煙・分煙区域の指定	分煙対策として、禁煙区域の明示と喫煙場所の設置を行い、受動喫煙の弊害抑制
啓発活動	喫煙者に対する健康意識高揚のポスター掲示

## ■学内美化

項目	実施計画
雑草の刈り取りとゴミの一斉収集	キャンパスクリーン週間を年間2回設け、教職員と学生による一斉の雑草刈りとゴミの収集を行い、環境美化を図る。また、この期間中以外でも道具を貸し出し、有志で環境美化が実施できる対応としている。
植栽の剪定	定期的に植木剪定業者を雇い剪定する。
花壇の整備	学内作業員により整備
ゴミの収集	要所に分別収集専用ボックスを設置する。

## ■法規制の遵守

項目	実施計画
自然公園法	第13条第3項に規定する行為の許可申請の徹底
建築物における衛生的環境の確保に関する法律	空気環境の徹底管理(施行規則第3条の2)
	飲料水の徹底管理(施行規則第4条)
	雑用水の徹底管理(施行規則第4条の2)
	排水設備の徹底管理(施行規則第4条の3)
	清掃の徹底(施行規則第4条の5)
	ねずみ・昆虫の防除徹底(施行規則第4条の5)
消防法	別表第一に定める危険物の保管量の徹底管理
産業廃棄物に関する法律	マニフェスト制度の完全実施

## 6. 環境マネジメント実施とその効果

大阪教育大学では、環境方針の下に作成した環境配慮実施計画に基づいて平成18年度の環境マネジメントを実施し、以下のような効果を認めることができました。

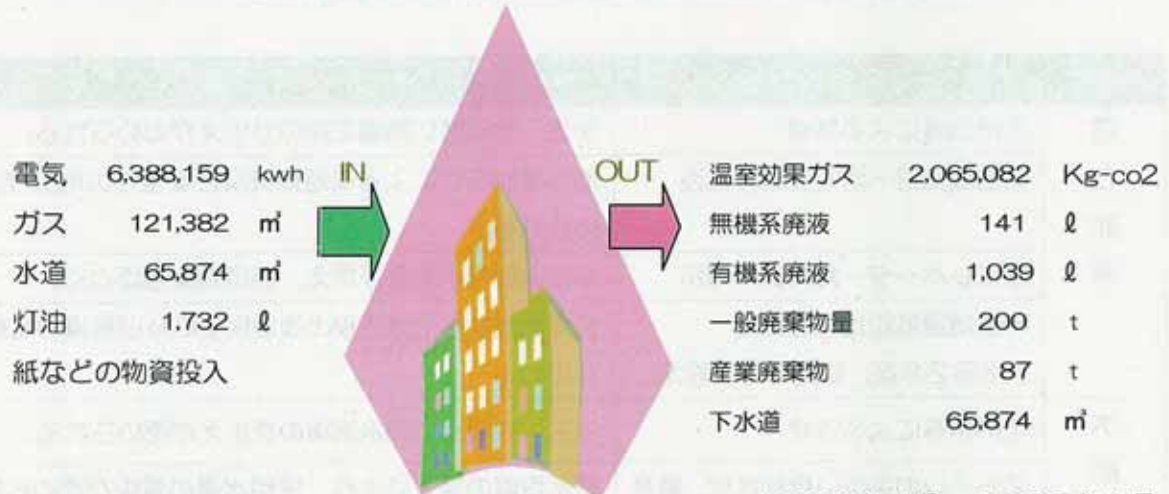
目的	マネジメント	効果
電力節減	①掲示等による啓発	学生・教職員に節電意識の芽生えが認められる。
	②自動点灯・消灯設備の推進	消し忘れ防止による節電効果及び安全性の向上が認められる。
	③エレベーター利用節減掲示	階段を利用する者が増え、節電効果を認める。
	④空調温度設定の適正化 (冷房28度、暖房20度設定)	節電意識から地球規模の環境保全に及ぶ意識の高揚を認める。
水節減	①掲示等による啓発	学生・教職員に節水意識の芽生えが認められる。
	②トイレの手洗い自動水栓、擬音装置の導入	節水設備の導入により、使用水量の減少が認められる。
その他	①両面プリンター・コピー機の導入	会議資料等に要する膨大な用紙類の使用量の抑制が認められた。
	②学内連絡のメール配信	ペーパーレス化による、用紙類の使用節減の意識が浸透した。
	③文書の保存を電子記録媒体使用	学籍データ等の膨大なデータを電子記録媒体により保存することにより、キャパシティの縮小とともに用紙類の使用量を節減。
	④講義室等の空調設備にガス方式を採用	省電力とともに温室効果ガスの排出を抑え環境保全が図られた。



## ■ 2006年度大阪教育大学の物資収支

本学の教育・研究活動に必要なエネルギー資源の流入と、それによって流出する温室効果ガス等の廃棄物、すなわち自然環境に与える環境負荷との関係の概要を示します。

これにより、本学の環境保全活動の成果と今後の指針の検討課題を考えます。



2006年4月～2007年3月

温室効果ガスは環境省「事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン（試案）」と環境エネルギー庁「エネルギー源別標準発熱量表」により電気、ガス、灯油分について算出した。



## ■ エネルギー量データ

2004年度（平成16年度）から2006年度（平成18年度）までの3力年のデータを掲げており、空調設備エリアが増大したが省エネ機器やガス方式の採用によりガスの使用量は増大したが電気使用量は削減となった（下表・グラフ参照）。

特に夏期と冬期が顕著であるが、掲示や学内放送による広報活動を通して、夏期のクールビズ、冬期のウォームビズを励行し、事務局・研究室のエアコン温度設定（夏期28度・冬期20度）の周知徹底や、講義室のガスヒーター集中管理、また、ビル管理空調システムを導入しての使用電力の制御、更に、全学に自動点灯・消灯装置の配備を推進し、エネルギーの節減と有効利用に努め、2006年度末には最も低い値を得た。



エネルギー換算係数		
電 気	KWh →MJ	昼 9.97
		夜 9.28
都市ガス	m <sup>3</sup> →MJ	45

### エネルギー消費量（単位 MJ）

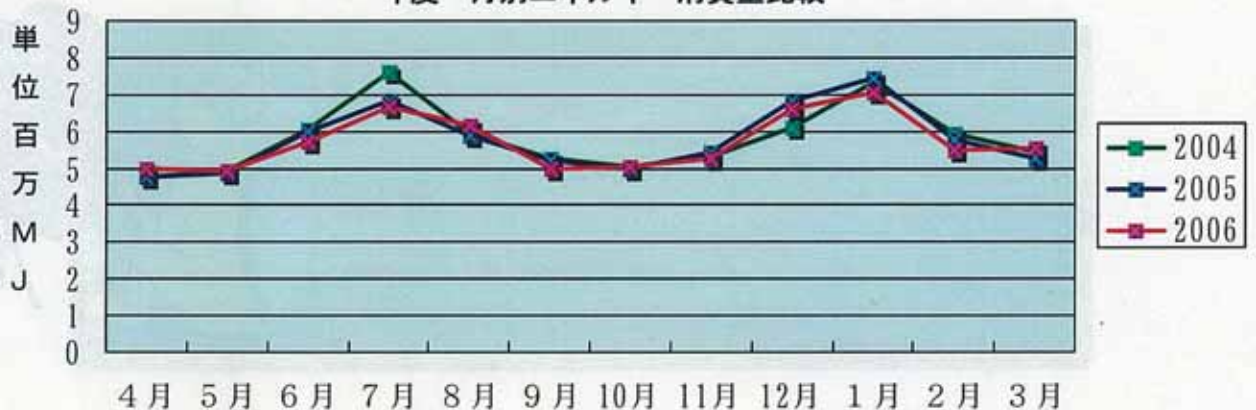
区 分	電 気	ガ ス	合 計
2004年度	64,190,989.10 (6,560,540)	5,452,605.00 (121,169)	69,643,594.10
前前年度比('06)	0.97	0.95	0.99
2005年度	63,996,837.98 (6,539,474)	5,203,675.00 (115,294)	69,200,412.98
2006年度	62,489,249.32 (6,388,159)	5,867,190.00 (130,382)	68,356,439.32
前年度比	0.97	1.08	0.98

\*（ ）内は使用量 単位：電気 KWh ガス m<sup>3</sup>

### 年度・月別エネルギー消費量（単位 百万 MJ）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
'04	4.74	4.91	6.06	7.63	5.94	5.24	5.04	5.30	6.12	7.30	5.94	5.42
'05	4.77	4.89	5.97	6.83	5.85	5.20	5.00	5.45	6.82	7.41	5.74	5.27
'06	4.98	4.93	5.70	6.64	6.17	4.97	5.03	5.27	6.59	7.07	5.48	5.54

年度・月別エネルギー消費量比較





## ■ 水使用量データ

水の使用量は掲示などによる節水の啓発活動や、自動水栓の導入、トイレの擬音装置等の節水機器の導入により10%をこえる削減を実施した。



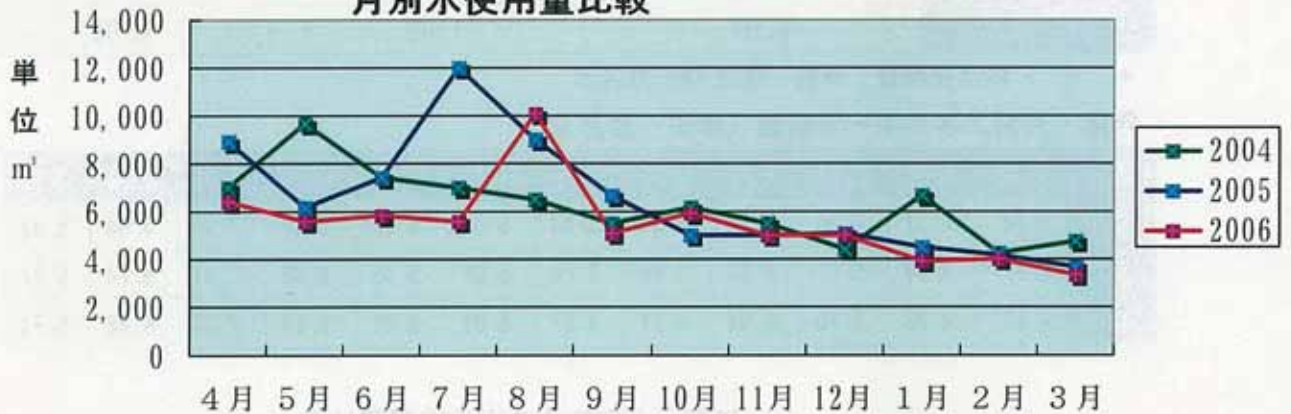
水使用量(単位:m<sup>3</sup>)

区 分	使 用 量
2004年度	74,806
前々年度比('06)	1.04
2005年度	77,467
2006年度	65,874
前年度比	0.88

年度・月別水使用量(単位 m<sup>3</sup>)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
'04	7,038	9,701	7,407	6,971	6,517	5,468	6,181	5,503	4,398	6,680	4,229	4,713
'05	8,915	6,193	7,376	12,006	9,007	6,627	5,004	4,974	5,055	4,517	4,152	3,641
'06	6,396	5,610	5,872	5,586	10,046	5,113	5,954	5,001	4,986	3,938	4,016	3,356

月別水使用量比較



## ■ 紙使用量データ

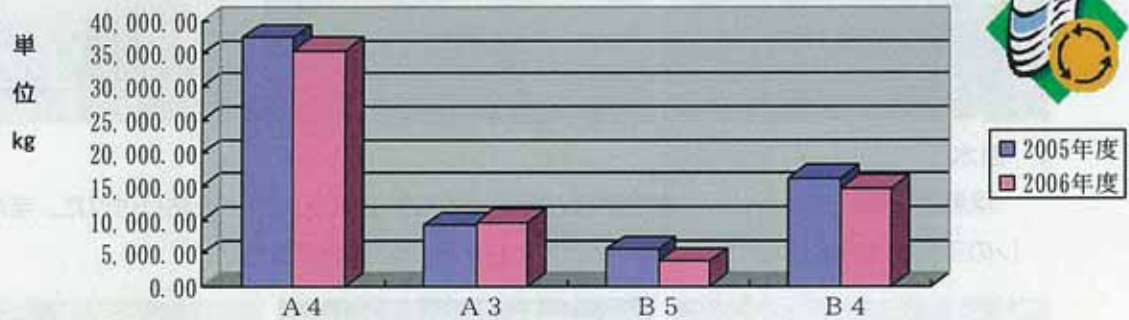
紙の使用量は、電子メールや電子記録媒体の利用、両面コピー・プリンターの導入等によりペーパーレス化を推進し、節減に努めており7%余の削減を図ることができた。

年度別紙使用量

単位：kg

区分	A4	A3	B5	B4	計
2005	37,372.30	9,171.54	5,564.70	16,264.80	68,373.34
2006	35,525.00	9,555.00	3,850.00	14,764.88	63,676.88
前年度比	0.95	1.04	0.69	0.91	0.93

紙の使用量比較



■ 2005年度  
■ 2006年度



## 7. 環境マネジメント活動の推進

本学では、現在、環境保全活動として8つの項目を推進しており、その状況について説明します。

### ■省エネルギー・節水・エコ対策

#### 1. 節電

電灯スイッチに節電ステッカーを貼付。また、ビル管理空調システムを導入し、空調利用状況を集中管理し、適正制御。更に、エアコンスイッチに簡易温度計を貼付。



#### 2. 節水

講義棟・事務局棟トイレ、事務室などの水回りに節水ステッカーを貼り付けた。また、トイレの手洗いを自動水栓にしたり、女子トイレに擬音装置を設置した。



#### 3. 紙のリサイクル

利用済みコピー用紙等の再利用を徹底するために、リサイクル紙を溜め込む、コピー用紙を取り出した後の箱を再利用（各所で工夫）しての配備。



## ■ 廃棄物の分別徹底とリサイクル

### 1. 一般廃棄物の分別収集

要所に分別ゴミ収集ボックスを配備して、分別収集を徹底し、委託清掃業者による毎日の清掃時に、委託清掃業者が取りまとめて集積場に投棄している。



### 2. 特別管理一般廃棄物の収集

使用済み蛍光灯などの破裂の恐れのある物、使用済み乾電池など化学反応を起こして爆発の恐れがあり、目つ有害物質を含むこれらの廃棄物の収集については、市の条例に基づき、集積場にコーナーを設けて、その場所に投棄することを周知徹底し、定期的な市による回収を受けている。

また、感染性を伴う物については、随時産業廃棄物管理票（マニフェスト）により処理を業者委託している。

### 3. 産業廃棄物

酸・アルカリ等の実験廃液やそれによる汚泥、廃油、又、廃プラスチック・金属類等の産業廃棄物は鍵付きの厳重管理格納庫を設置し、集積状況を見て随時、産業廃棄物管理票（マニフェスト）により処理を業者委託している。

### 4. その他のゴミの収集

冊子や紙類等は全構成員に回収日と収集場所を周知徹底し、リサイクル業者に回収処理を委託している。

粗大ゴミは鍵付き格納庫にコーナーを設け、リサイクル可能な物と不可能な物に分別し、学内再利用する物は学内ネットで広報し、必要者の再利用に供する。

また、不可能な物については産業廃棄物管理票（マニフェスト）により処理を業者委託している。

## ■化学物質（実験用劇物）の適正管理

本学の化学物質（実験用劇物等）の管理は、学長統轄の下に大阪教育大学実験廃棄物等管理会をおき、各種法規制を遵守し適正に管理されている。

その量、危険度に応じて、屋外と室内（研究・実験室）に設置した管理庫に保管し、それぞれに管理簿（受払簿）を置き、厳重に鍵をかけ、外部への流出等を防止している。



## ■分煙対策

健康を害する『受動喫煙（他人が吸うタバコの煙を吸わされることと定義されている）』の防止については、健康増進法第25条において『学校、体育館～（中略）～事務所、官公庁施設、飲食店その他多数の者が利用する施設を管理する者は、受動喫煙を防止するために必要な措置を講ずるよう努めなければならない』と規定され、さらに、厚生労働省から平成15年4月30日付け健発第0430003号を以て、その対策と措置を徹底するよう指示されている。

これを受けて本学では、棟内禁煙の周知徹底と、要所に喫煙場所を設け分煙対策をとり、教職員並びに学生の健康増進に努めている。



## ■放置オートバイ・自動車等対策

環境全書・基本の計画内訳書

本学は通学通勤に対する公共交通機関に恵まれた条件とは言い難い。また、最寄り駅からキャンパスまでのアプローチも高低差が激しく、原動機付自転車、オートバイ、自動車を利用した通学・通勤者が多い。

また、キャンパス内施設間の移動にこれらを使用する者も多く、指定エリア以外での駐輪・駐車には厳格に対応しており、また、増え続けている車輛に対応するため、順次整備を進めている。

よって、毎年、春と秋に大阪教育大学学生支援実施委員会が中心となり、関係教職員により、交通安全指導を含めて、指導にあっている。



## ■グリーン購入の推進

本学のグリーン購入は、国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成12年法律第100号）を遵守し、毎年度当初に本学独自の特定調達物品（グリーン）の調達方針・目標をたて、公表して実施するなど、積極的に推進している。

また、大学生協においてもグリーン購入コーナーを設け、学生にエコ意識を啓発し、積極的に購入を薦めている。



## ■構内緑化の推進・保全活動

### キャンパスクリーン

施設整備管理室（室長：副学長）が企画し、学長・役員を始め全ての学生・教職員を対象とするキャンパスクリーンは年に2回実施しており、これまでに15回を数えている。

昨年からは活動の拡大を図るため「キャンパスクリーン週間」と衣替えを行い取り組んでおり、1週間で1,000名を超える参加者を集めてキャンパス環境の維持保全を行っている。

また厳しい財政状況のなか環境緑化経費を確保しシルバー人材センターを活用した作業やキャンパスの特質をよく知っている担当職員の日常構内巡回による、草刈り、構内清掃によりきれいなキャンパス作りを実施している。



## ■環境教育の取り組み

### 「地域連携学校教育のできる教員養成プログラム」

(現代GP2006 年度文部科学省採択)

上記プロジェクトの取り組みの一部に、次世代を担う子どもたちとともに持続可能な開発のための教育を目指して、地域との連携により自らを取り巻く環境への幅広い知識と感性教科教育と体験学習により育むことを目的に取り組んでいます。

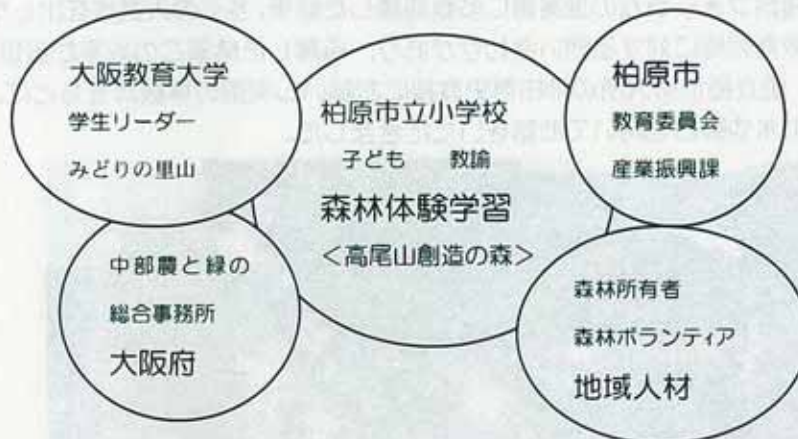
#### ○活動目標

##### 子どもたちの目標

- ・ 自然環境への理解と豊かな感性を養い
- ・ 地域の自然特性や暮らしへの気づきを深め
- ・ 他者と協力して問題を解決する能力を養う

##### 学生たちの目標

- ・ 子どもの集団活動と体験学習を支援する
- ・ 環境教育に対する理解を深め
- ・ 行政、地域、学校等の人材との連携活動





## ■附属学校における環境への取り組み

### ○保護者と共に取り組む環境整備、環境教育

#### 草刈り、大掃除

・体育祭前日の6月9日（金）に保護者の協力を得て運動場の草刈りを実施しました。当日は2年生の女子と保護者40名に参加していただき、体育祭の会場準備と並行して行いました。前日に少し雨が降ったため草が抜けやすく運動場の周りの草をきれいに抜き爽やかな運動会を迎えることができました。

・学期間に2回の大掃除を実施しています。日ごろの清掃で行うことができないロッカーや棚の後ろ、黑板の上など隅々まで清掃をすることを合言葉に行っています。

また教室の床を行うワックスがけは美化委員が中心となり清掃終了後に行い、きれいな床にて新しい学期を迎えるようにしています。



### ○自然に学ぶ環境教育

#### 磯実習

- ・ 海岸（磯）の生物の生態を探る。（潮間帯の生物と環境）
- ・ 三圏の接する場所における生物と環境の関係を現地で学ぶ。
- ・ 和泉層群の堆積の様子を探る（砂泥互層の堆積環境と古生物）
- ・ 数千mに及ぶ厚さを持つ和泉層群の成り方を現地で観察する。

を目的として「磯の環境を学習する」「生命の尊さを知る」に主眼をあて、和歌山県の加太海岸で実施しています。

#### 南極教室

本校の生徒が極地フォーラムの提案書に多数応募した結果、多くの入選者を出したのがきっかけに南極教室開催に対する問い合わせがあり、応募した結果この教室が実現した。

講師は、国立極地研究所の神田啓史教授にお願いし実際の体験談をもとに、パネルや本物の南極の氷や隕石を用いてお話をいただきました。



## 大阪教育大学大学生協における環境への取り組み

### ■ 複合店におけるグリーン購入の推進

複合店文具品コーナーでは、グリーン購入法適合商品を中心に取り扱っている。2006年度は、グリーン購入法適合商品でない商品の新規仕入れを最小限にとどめる、全商品とも単品購入時に、レジ袋使用の削減を呼びかけるようにしている。



### ■ テイクアウト弁当容器にリサイクル紙容器「ホッかる」を採用

「ホッかる」は紙とフィルムできており、紙とフィルムは簡単に分別できる構造で紙部分は再生紙（主にトイレットペーパー）としてリサイクルが可能である。

昨年度に引き続き、この「ホッかる」弁当容器をテイクアウト弁当容器として採用し、レジ袋に入れずに販売するようにした。

また「ホッかる」の回収箱を9ヶ所設置しており、2006年度は49,800個の容器利用に対し、10,800個の「ホッかる」が回収に出され、回収率は21.7%であった。これは再生後のトイレットペーパーの長さに換算すると約95kmに相当する。



### ■ レストランやコンパで、間伐材を使用した割り箸「樹恩割り箸」を採用

生協レストランおよびパーティーや懇親会などで使用する箸として、間伐材を使用した割り箸「樹恩割り箸」を採用している。2006年度は54,000本の樹恩割り箸が使用された。



### ■ 食堂全店舗における食器洗浄機用洗剤に環境へ配慮した洗剤を採用

食堂4店舗4ヶ所の洗浄機において、食器洗浄機用洗剤に苛性分やリン分を含まない洗剤を採用している。また、厨房内の節水および節電を心掛けるようスタッフ全員に指導をしている。

## 8. むすび

昨年までは、毎年夏になるとデマンド抑制のため電気使用量が上昇すると事務局庁舎を皮切りに空調設備を止め、役員自らが暑さに我慢し汗をふきながら執務を行っていた。それならと厳しい財政状況のなか学内経費を捻出し、数年前から電気使用量を削減するため老朽化した空調設備をガス方式の空調設備へと整備を図ってきた。

しかし、昨年環境報告書の提出と同じ時期に大阪府温暖化の防止等に関する条例に基づく温室効果ガス排出の対策書を作成した。対策書には今後3年間に3%の温室効果ガスの削減が義務付けられ全学掲げて今後はそれに取り組む

ことになるが、電気使用量及び経費削減に向け取り組んできたガス方式空調設備が電気に比べ多くの温室効果ガスを排出するため今後はまた見直しが必要となるのは残念な話である。

京都議定書の目標達成状況が厳しいと言われており、今後国からの指導、要望が強くなることが予想される。本学は教員養成系大学で大規模、特殊なエネルギー消費はなく日常の活動に必要なエネルギーを消費しているため現状以上の削減は厳しい状況である。

しかし人を育て導くことを使命としている本学では学生・教職員一人一人が、地球環境を意識し身近なことからアクションを起こし、この恵まれたキャンパス環境の維持保全、省エネに取り組んでいきたいと考えている。

2007年9月30日



施設整備管理室長 総括環境責任者  
大阪教育大学副学長(理事) 栗林 澄夫

施設整備管理室長 総括環境責任者  
大阪教育大学副学長(理事)

栗林 澄夫

# 夏季省エネキャンペーン



電気はこまめに  
**OFF**



環境地球に  
やさしく



室温設定は  
**28°C**

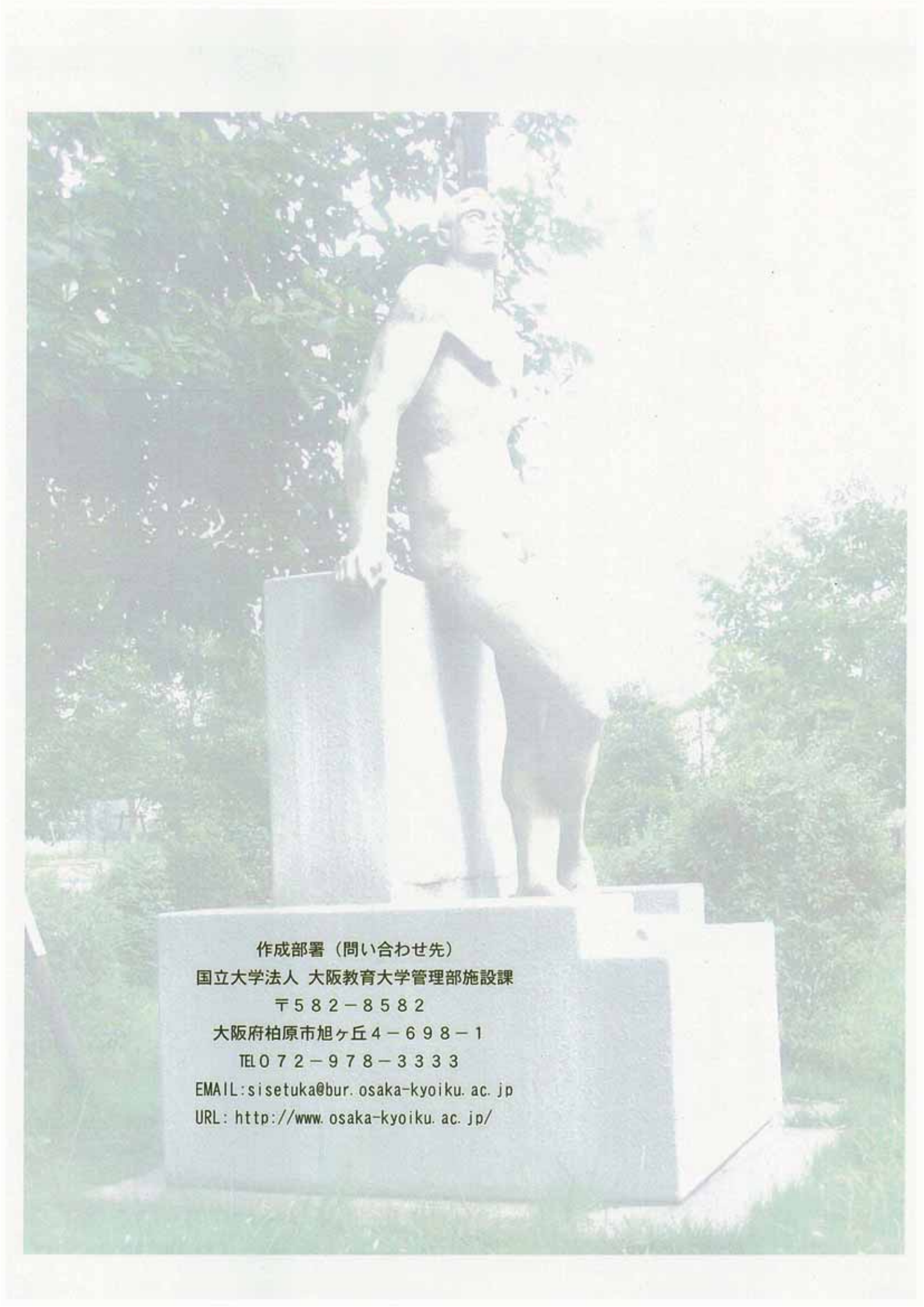


大阪教育大学

# 柏原キャンパスマップ



崇仁大学



作成部署（問い合わせ先）

国立大学法人 大阪教育大学管理部施設課

〒582-8582

大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

TEL 072-978-3333

EMAIL: [sisetuka@bur.osaka-kyoiku.ac.jp](mailto:sisetuka@bur.osaka-kyoiku.ac.jp)

URL: <http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/>